

# 大会決議

九州の東海岸部を南北に走る東九州自動車道は、福岡、大分、宮崎、鹿児島  
の4県からなる東九州地域の日常生活や通勤通学に必要な「生活の道」であり、  
また、「平成28年熊本地震」では、九州自動車道及び大分自動車道が寸断さ  
れる中、支援ルートや代替ルートとして大きく貢献するなど、災害時には「命  
をつなぐ道」として機能しており、南海トラフ地震等の今後も想定される大規  
模災害に対し、東九州自動車道の早期全線開通及び機能強化による一層の国土  
強靱化が必要である。加えて、地方創生の基盤となる地域の産業・経済の発展  
を支える「活力の道」ともなる東九州自動車道は平成28年4月北九州市から  
宮崎市間の広域開通後、人や物の流れが格段に活発化しており、まさに東九州  
地域の「屋台骨」である。

さらに、西九州の九州自動車道と連結することにより、九州を一周する循環  
型高速道路ネットワークが完成し、東九州地域はもちろん、九州全体の産業・  
経済・文化の一体的浮揚が図られる待望の路線である。

全延長436kmのうち約83%の区間が開通しているが、九州自動車道が全  
線開通し、九州新幹線鹿児島ルートも全線開業した西九州地域と比べ、東九州  
地域の高速交通体系の整備は大きく立ち遅れている。

東九州自動車道の完成は、東九州地域900万人を超える沿線住民の長年の  
悲願であり、その熱い思いを毎年建設促進地方大会で決議し、189万人も  
の方々の署名を、我々は中央関係機関に届けてきた。

このような地元の熱意を十分踏まえるとともに、インフラ投資はコロナ禍か  
らの復興局面においても地域経済を下支えするものであることから、遅れてい  
る東九州自動車道の早期整備に向け、次の事項について強く提言する。

- 一 激甚化する自然災害に備えた事前防災を加速するため、防災・減災、国土  
強靱化3か年緊急対策に続き、予防保全への転換に向けたインフラ老朽化  
対策や高速道路等のミッシングリンク解消、4車線化・ダブルネットワー  
クなど対象事業の拡大を図るとともに、事業期間は5か年計画とするなど  
中長期的かつ明確な見通しのもと、緊要な経費として別枠による必要な予  
算・財源を確保すること。
- 一 令和3年度予算については、高速道路網の整備を推進するための所要額を  
満額確保すること。

- 一 整備の遅れている地方への高速道路関連予算の重点配分を行うとともに、住民の「暮らし」と「命」に関わる高速道路ネットワークを早期に構築すること。
- 一 東九州自動車道の事業中区间については、開通目標年次を明確にし、着実に整備を推進すること。
- 一 未事業化区間「南郷～奈留 間」の早期事業化を図ること。
- 一 暫定2車線区間の早期4車線化及びそのための財源確保を図ること。
- 一 平常時、災害時を問わない安定的な輸送を確保するため、東九州自動車道全線の重要物流道路の指定を行うこと。
- 一 道路利用者の安全性や利便性の向上のため、休憩施設の更なる充実を図るとともに、スマートICの整備など地域との連携を図ること。
- 一 災害発生時における機能確保や維持管理を確実にを行うため、地方整備局等の人員体制の充実・強化を図ること。

以上、決議する。

令和2年11月9日

東九州自動車道建設促進中央大会